

腋臭症（ワキガ）・多汗症

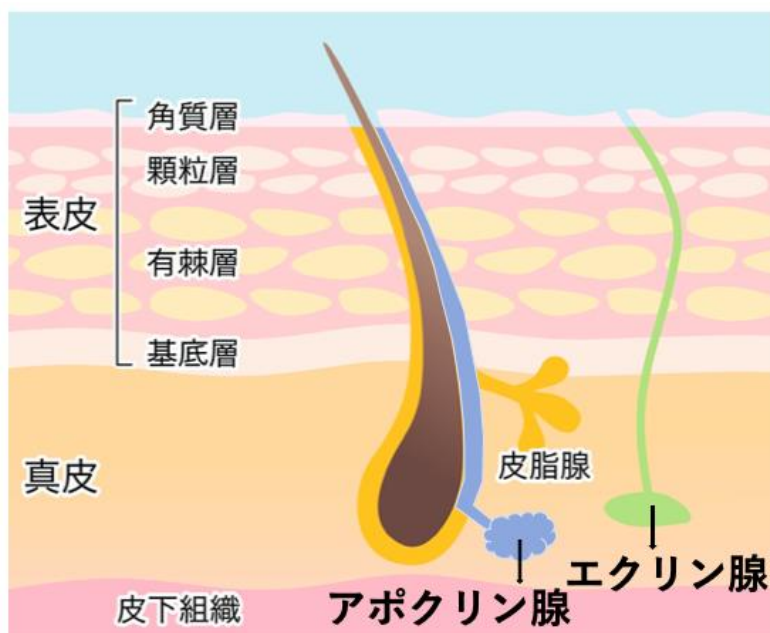
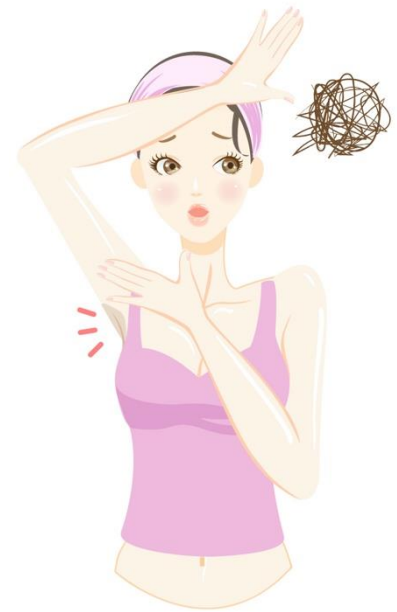
腋臭症（えきしゅうしょう）とは、脇から強い臭いがする状態です。

ワキガとも呼ばれています。

アポクリン腺という汗を分泌する腺は毛穴に向けて開口しており、臭いの元となる成分を含んでいます。

分泌された汗が皮脂と混ざり、細菌に分解されると臭いが発生します。

臭いが強くなると腋臭症となります。



腋臭症と多汗症の違い

セットで考えられることが多いですが、原因となる汗腺が異なります。

- 腋臭症：臭いが強い状態、アポクリン腺が原因です。
- 多汗症：汗の量が多い状態、エクリン腺が原因です。

疫学

- 男女比 ほぼ1：1
- 思春期に多い
- 夏に多い



治療

- ご自宅で
 - ・清潔を保ってください。
 - ・塗り薬や飲み薬：汗の分泌を抑えることで臭いを落ち着かせます。
 - ・「重度腋窩多汗症」と診断された場合、外用（エクロックゲル®）や注射（ボトックス®）による治療を保険適用で行うことができます。

※ボトックスの注射を施術するためには専門の資格が必要になり、当院にも有資格者がおります。

●病院で

・脱毛：脱毛をすると臭いが軽減します。

毛抜きは臭いが増悪する可能性があります。

・ miraDry（ミラドライ）：マイクロ波で臭いの元となるアポクリン腺を壊します。

・神経ブロック：神経の働きを抑制し、汗の分泌を抑えます。

・手術：※当院では手術のみ施行しております。

次に手術方法について説明します。

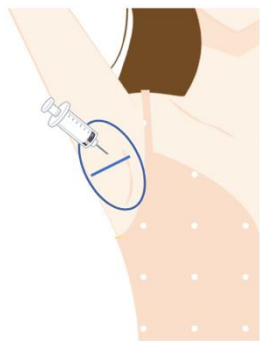
腋臭症手術

当院では「皮弁法」という方法を行っています。

●手術方法

1. 汗が出る部分全体（下図○で囲った部分）に麻酔をします。
2. 脇の下に直線の切れ込みを入れます。

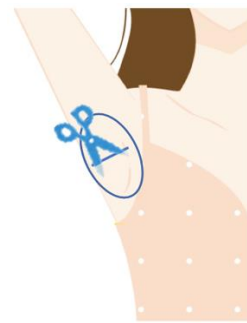
3. 汗が出る部分全体（下図○で囲った部分）の皮膚を剥離します。
4. 皮膚の下にあるアポクリン腺という汗腺を除去します。
5. 丁寧に縫合します。
6. 出血が皮膚の下にたまらないようにガーゼで脇の下を圧迫して手術は終了です。



① 麻酔



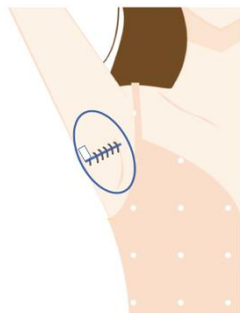
② 切開



③ 剥離



④ 除去



⑤ 縫合



⑥ 圧迫

術後の経過

全身麻酔で最短3泊程度の入院が必要になります。

術後7～10日間、ガーゼで圧迫を続けます。

その間は腰から下のシャワー浴のみが可能です。

術後7～10日後に圧迫しているガーゼを外し、抜糸をします。

その後は入浴が可能になります。

(ただし、医師の判断によりシャワー浴のみを継続して頂く可能性があります。)

注意

皮弁法による腋臭症治療は効果が高いですが、皮膚を薄くしすぎると皮膚壊死の危険性が高まります。

ですので、匂いが完全に消えるというよりは匂いが軽減して臭くなくなるのが目標となります。

また、脇毛がまだらになったりすることがあります。

術後合併症

出血・血腫（血溜まり）・感染・皮膚潰瘍（ジュクジュク）・皮膚壊死・
醜状瘢痕・神経障害・運動障害・色素沈着・再発など